

□ 第4回 伊勢市農村振興基本計画策定委員会 議事概要

1. 日 時：平成29年3月6日（火）16:00～17:00
2. 場 所：ハートプラザみその2階保健会議室
3. 出席者：委員／徳田、前田、小山、濱口、早川、山本、高橋、浦田、森
（敬称略）事務局（伊勢市）／中井、山中、杉木
（株）都市環境研究所／西田、山本
4. 協 議

(1) 開会の挨拶

徳田委員長より、開会の挨拶を行った。

(2) 計画(案)のパブリックコメントの結果について

① パブリックコメント実施の概要

徳田委員長の進行により、事務局から事項書「2. 計画(案)のパブリックコメントの結果について」「(1)パブリックコメント実施の概要」「(2)計画(案)について」について説明した後、以下のとおり質疑応答を行った。

○ ここまでの説明について、何かご質問があればお願いしたい。

先ほどの説明でp32の「基本方針4 自慢できる安全・安心な農産物づくり」の「施策10：地域資源としての農産物のブランド化に向けた取り組み」の「③6次産業化など農産物の加工品開発を推進します」の説明文に「高校・大学等の教育機関」との連携を新たに加えたという説明があったが、具体的に何か考えがあるのか。

→ 現在、三重大学や、JA伊勢といっしょに宇治山田商業、明野高校に話をさせていただいている。さらに宇治山田商業においては、ねぎを使った加工品について市内の流通小売店と話をしている。現在、こうした取り組みを行っており、また、今後も連携して取り組みたいと考えているので追加した。

○ デザイン的な話だが、知らない人が見てもわかるように写真の解説が写真の下段にあったら良いのではないかと。

- 今後、一般の人の視点も考慮して読み返す作業を行い、必要がある箇所については追加したい。
- 確認だが、p 27 の「施策 2 : 農業の共同化、法人化の推進」の指標の「集団営農組織化、農業経営法人化件数（累計数）」だが、この数字は集落営農組織化と農業経営法人化したものを合計した数なのか。まず集団営農ができ、その後その組織が法人化したら 2 回カウントするのか。
- 実際には、集落営農化、法人化にかかる経費の補助のメニューがあって、それを活用した件数なので、同じ組織でも 2 回カウントになる。
- 現状値の 5 件というのは、2017 年度の補助金を受け取った数ではないのではないか。
- 今現在、補助金を受けて営農化、法人化した数ではなく、現在の組織の数である。
- 目標値が 10 件ということは、今後 10 年間にあと 5 件、補助金を予定しているという事か。
- 集落営農化するか、集落営農から法人化するところが 5 回というように目標を設定している。
- p 26 の認定農業者数と認定新規就業者数については、認定農業者数は現状値、目標値とも実際の数で、高齢化などでやめていく人もいるなかで、これだけ新規就農者を確保すればこの数が維持できるというのはわかる。一方、p 27 の「施策 2 : 農業の共同化、法人化の推進」は、現状値、目標値とも実際の組織の数ということであれば整合性がとれるが、現状地は実際の数で目標値は補助金を受けて組織をつくる数だとすると整合性がとれない。
- 現状は、集落営農 3、法人 2 であり、このうち 2 つをダブルカウントしているのではないか。
- 集落営農は、宮前、明野、磯、馬瀬、という組織があり、うち磯が法人化しているので、磯がダブルカウントになり、5 という数字になっている。

○ 集落営農化と法人化を並列化しなくても良いのではないかと。集落営農に限定した方がわかりやすいのではないかと。

→ ステップを踏んだものをカウントしていくということで、検証の時に誤解を招かぬよう、解説などの表現を工夫する。

○ 計画案については、これで終わりとする。次は今後のスケジュールについて説明をお願いします。

② 今後のスケジュール

徳田委員長の進行により、事務局から事項書「3. その他」「(1)今後のスケジュール・答申について」について説明した。3月16日に産業建設委員協議会に計画案を報告し、大きな修正の必要が生じた場合は第5回策定委員会を開催する可能性がある、その場合の会議の形式については事務局で考える旨説明し了承を得た。

事務局からのお礼、閉会の挨拶の後閉会した。